

2014年12月
1071号

万葉

Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

福島原発封鎖地域視察・プロスパーポローニア植樹その後

一冊の会では、東日本大震災で被災した町に継続して支援を続けてまいりました。その一環として、被災各地に復興記念植樹を行っており、2014年11月20日、雪が降る前にメンテナンスをしておきたいとの思いで植樹した町を再訪してまいりました。現地では、旧交をあたためるとともに、植樹したプロスパーポローニアの成長を確認してきました。

また、今回、東日本大震災から、3年半ぶりにやっと開通した福島原発付近の国道6号線を通り、原子力災害の現状を見てまいりました。

国道6号線は、福島第一原子力発電所の側を通っており、福島県富岡町-双葉町間(14.1キロ)は、特に放射線量が高いため、封鎖されていましたが、9月15日に開通しました。

ただし、自動車が通行可能のみで、バイクや自転車、歩行者は放射線量が高いため、通れません。そして道路には脇道への進入を防ぐバリケードを沿線に設置し、人が入り込めないよう、住めないようになっています。

開通した地域に入る前、写真のように、帰還困難地域である看板が並びます。



警備員や警察官が立ち、ここが普通の町ではないことが伝わってきます。帰宅困難地域は、一見すると普通の町ではあるのですが、家の前には侵入防止のバリケード、よく見ると家の雨戸も閉まっています。ここが日本の町とはとても思えず、非日常の光景です。

最初の訪問地は、相馬市立磯部小学校です。植樹したプロスパーポローニアはとても大きく育ち、植樹して3年半で4メートルもの大きさになっていました。芽吹いており、来年にはきれいな花が咲くことでしょう。

ここでは、佐藤校長先生に歓迎していただき、「来春が楽しみです」と喜んで下さいました。美しい、力強い女性の先生です。

次に、相馬市役所を訪問し、FAWA（アジア太平洋女性連盟国際会議）韓国開催の折、相馬市の復興を交えてカントリーレポートで発表した旨もお伝えしました。

その後、仮設住宅の住民の方とも交流し、被災地の復興状況などを伺いました。

植樹した、宮城県名取市閑上では復興のシンボル側に移植してありました。地元のみなさんのあたたかい御配慮に感謝いたしました。宮城県山元町を訪ね、広い楽天野球場のメインにしっかりと成長しているプロスパーポローニアの勇姿に感動しました。いずれのプロスパーポローニアも元気に育ち、復興を象徴するかのようでした。



今回、福島、宮城の一部を周ってまいりましたが、ニュースではわからない現地をみることの大切さを改めて実感しています。護岸工事がすすんでいるとはいえ、復興までの道のりは遠く感じ、継続した支援の必要性を感じます。原子力災害の現状も一端ですが、知ることができました。私たち一冊の会を通じて、なにができるのか。被災地域は広大ですが、これからも注視し続け、まだ植樹ができていない地域に関しても徐々にその範囲を広げてまいります。



プロスパーポローニアの成長とともに、成長をしていく私たちに今後ご期待ください。

プロスパーポローニアの剪定を初めて体験しました。

一冊の会 櫻華塾 ライオンキンググループ 山内聖士

※掲載記事、写真等の無断転載及び複写を禁止します。Copyright(C)2008 Issatsu no Kai. All Rights Reserved.